



押仲

多賀会長題字

【会長のご挨拶】



押上一丁目仲町会
町会長 多賀康之

東京都の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は三千六百二十一人だった六月三十日から七月に入り徐々に増え、第七波と呼ばれ、七月二十八日に四万三千九百五十人に達しましたが、三年ぶりに行動制限のない夏になり、八月に入って徐々にではありますが、新規感染者数が減ってきました。

さて、前号発行の六月末からの行事を振り返りますと、例年七月下旬に行われております隅田川花火大会ですが、四月に早々と中止が決まっています、七月の中旬からは飛木稲荷神社の祭礼に注力いたしました。

飛木稲荷神社の神幸大祭は、九月八日の神酒所建設・神酒所祓いのために、事前にできる神輿の飾り付けと幟の設置を九月四日に行いました。

九月九日十一時からの大祭式に続き、十日のご鳳輦巡行と行事が続きました。氏子総代になって初めてのご鳳輦のご巡行であり、朝早くから支度をして九時半に神社を出発しました。宮元である押上西和町会が発時の先導で、曳舟川通りのホンダの前で押上二丁目町会への引き渡しを経て、大踏切の二丁目側で当町会への引継ぎがありました。

「神幸祭、ご鳳輦引継ぎ式を行います」「神幸祭おめでとうございます」

押上一丁目仲町会広報部

編集責任者 山本 勝信

第九十四号

令和四年九月三十日

謹んでご鳳輦お渡し申し上げます「神幸祭おめでとうございます。謹んでご鳳輦お受け申し上げます」(二本締め)「しゃしゃしゃん、しゃしゃしゃん、しゃしゃしゃん」町会の役員には、御幣、高張提灯、太鼓、参列、賽銭箱担当などをお願いいたしました。町内のご巡幸の先導のご奉仕ありがとうございます。

ご鳳輦のご巡幸には、牛が鳳輦を引く練習を行う期間が必要であり、四月によほどのことがない限り執り行うことで決定をいたしました。危ぶまれておりました天候も回復し、良い天気の中無事終了することができました。一方、お神輿の連合渡御は中止にし、町会行事である会員の皆様や子供たちが楽しみにしているお神輿や山車、演芸大会・抽選会・模擬店・ゲーム大会なども中止にせざるを得ませんでした。来年こそは、普通のお祭りが開催できることを願うばかりです。

また、今年も九月二十一日から秋の全国交通安全運動が始まりました。この記事が皆様の目に触れる時には交通安全運動が終わってしまっておりませんが、自転車がらみの事故が43%と非常に多いのが目を引きまします。自転車も交通ルールを守っていただけるようお願いいたします。

最後に、特殊詐欺へ注意喚起で、締めたいと思います。警察官、銀行員、区役所職員などに成りすまして、キャッシュカードを奪い取った

り、ATM振り込ませるなどの手口です。電話がかかってきて、以下の言葉が入っていたら間違いなく詐欺ですので、警察に連絡してください。キーワードは、「還付金・お金に戻る」「キャッシュカード・カード」「暗証番号」です。また、ATMで電話をしている人を見かけたら、詐欺にあっている電話ですので、銀行の係の人を呼ぶなりして被害を未然に防ぎましょう。

察いたします。九月一日(木)は、防災の日でした。災害時の備えは大丈夫ですか? 毎年の事ですが、備え・避難場所等、家族で話合っておくことが大切です。今年は飛木稲荷神社大祭の年となります。八日(木) 神酒所建設終了後、宮司さんのお祓いをしていただき、十一日(土) 鳳輦巡行が執り行われました。

神酒所建設・鳳輦巡行にご協力いただいた皆様、大変お疲れさまでした。女性の方々には、朝から浴衣着用し参列していただき感謝申し上げます。来年こそは、通常の例祭が出来るよう願っております。

感染対策を緩めることなく頑張っ

【しらとり子供会】

笠松 貴美子

例年ですと楽しい夏休み、宿題に追われる夏休みのあとは、町会のみんなでお神輿を担ぐ秋を迎えますが、今年もコロナ感染症の影響により静かなお祭りとなりました。子どもたちの元気な声が響かないのは残念ですが、学校生活では感染状況を考慮し工夫しながらの行事が進められています。

5月は運動会が悪天候の中でしたが無事開催することができました。今後は十一月には音楽会として十二月には業平小学校105周年式典を予定しています。町会にも業平小学校の卒業生の方がいらっしゃると思います。

ご家族やご近所の方と業平小学校の思い出話をしていただき105周

年をお祝いしてみたいかかでしょう。懐かしい話題や新たな発見がたくさん出てくるかもしれません。引き続き次世代を担う子どもたちが地域の中で健やかに成長できるようにご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【婦人会】

山本 容子

早速ですが、ご報告があります。廃品回収の中止については、回覧板でご案内した通りですが、婦人会としての活動が事実上困難になってしまいました。五月二十一日に開催した婦人会総会にて、本年三月付で活動を停止し、解散する事となりましたのでご報告申し上げます。

会員の皆様に案内の通り、三月までに実施した活動に対する収益(廃品回収報奨金)が入金された時点で、残高を分配し精算する事としています。

最後になりましたが、先輩方が維持して来られ、町会の皆様にもご協力いただけてきたにも拘わらず、存続できなくなってしまった事、世の中の移り変わりとは言え、大変申し訳なく、深くお詫び申し上げます。今までありがとうございます。

【町会長の思い出】

高橋 邦夫

私は細川顧問の後、町会長を引き継いで、平成十八年に就任致しました。「長かった五年間」いざ町会長を引き受けましたら、大変忙しくて、区役所、防犯の事で警察署、消防署、地元の小、中学校の行事に呼ばれました。

四年に一度の大祭の時は、鳳輦で



鳳輦参加者集合写真

【総務部長】

大橋 祥子

爽やかな季節を迎え会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお





神酒所開所

黄色の着物に袴をはいた上に、袴を着て、飛木神社に係りして各町内を暑い日に巡行した事を思い出しました。三々四時間ぐらい歩いたか。

今年は多賀町会長と沖山さんが歩いたネ。ご苦労さんでした。

又、私が町会長の時、634の押上の地に東京スカイツリーが完成し、皆さんの目を楽しませてくださっていますネ。

町会長をやって、楽しい事も有りましたが、悲しい事も有りました。それは町内の先輩方の葬儀委員長を勤めたことです。お別れの挨拶中、胸がいっぱいになりました。私しにご指導、協力をして下さった方々でしたからです。

町内の皆様今コロナが流行して大変ですが体にじゅうぶん気をつけて、お暮し下さい。

結びに皆様のご健勝とご繁栄をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

【押上界隈の歴史あれこれ】 三三 恵比寿神・大国神を祀る 三三 三三神社

横井 正男

「隅田川七福神巡り」は江戸時代から続く都内でも指折りの歴史ある参拝コースです。お正月には、元旦から小正月の一月一五日頃まで、隅田川沿いの道路は七福神巡りの参拝者で賑わいます。多くの参拝者がコースの初めに訪れる先は恵比寿神・大国神の二神が祀られている「三三神社」です。

今回は江戸時代の新板浮絵「三三牛御前両社之図」にも描かれていた古社三三神社を紹介します。



三三神社正面

三三神社正面の鳥居をくぐると、参道の左右に一对の狛犬の石像が、更に進むと、拝殿手前の左右に一对の狐の石像が参拝者を迎えます。何れも右側の石像は口を開いた阿形像、左側の石像は口を閉じた吽形像です（写真）。

阿・吽とは音声・万物の初めと終わりを表し、魔除け・邪気祓いの意味があるとされています。多くの神社は狛犬ですが、三三神社は稲荷神社なので、神様のお使いである狐の石像も鎮座しているのです。因みに飛木稲荷神社では一の鳥居前と拝殿前に、それぞれ一对の「狐の石像が神社をお

守りしています。

三三神社は、珍しいことに参道脇の境内に青銅製のライオン像がありま



狐の阿形石像



狐の吽形石像



青銅製のライオン像

門前にある三三神社の「説明板」及び境内の由緒を記した「石碑」の内容をまとめて紹介します。

『神社の草創は弘法大師が祀った（平安時代中期頃）田中稲荷と伝えられている。当初は現在地より北二百m（桜橋通り辺り）の旧牛島神社（関東大震災後に現在地に遷座に隣接していた。文和年間（二五二―五三）に近江（滋賀県）の三井寺の僧・源慶が社殿改築の折、土の中から壺を掘り出し、中に白狐にまたがる老人の像を見つけたと、どこからともなく白狐が現れ、像の周りを三度回って消えたという縁起から「三三」の名が付けられた。慶長年間（二五九―一六一五）墨堤を築く際に、三三神社は現在地に遷座した。』

元禄六（二六九四）年六月、日照りの為、村人が雨乞をしていると、参拝に来た芭蕉の弟子の宝井其角が「ゆうだちや田を見めぐりの神ならば」の俳句を献じた。翌日、雨が降り、利益が評判になった。

京都の豪商・三井家は日本橋に進出した際、評判の三三神社は鬼門の方向にあること、三三の文字を三井の名に肖り守護神にした。

享保元（一七一六）年、三井家は神社に田地を奉納、社殿・瑞垣を改築。また、三三講の創設、境内末社として三井家に祀られていた大国天・恵比寿神を遷座など二百年以上にわたり敬神、今日に至る。平成二十一（二〇〇九）年、旧三越池袋店のライオン像を移設した。』

現在も毎年お正月には三井グループ幹部が揃って初詣に並ぶそうです。



写真1

社殿裏には鳥居を正三角形に組んだ大変珍しい「三角石鳥居」があります。



写真2

が祀られています（写真2）。社殿裏奥の墨堤下には古い「大鳥居」があります（現在は閉鎖され

ています）。階段を上った先には「三三の渡し（通称竹屋の渡し）」がありました。また、大鳥居は隅田川を船で運行する人たちのランドマークでした。「三三の渡し」は、関東大震災後の昭和五（一九三〇）年に言問橋が完成し廃止されました。

この他にも、境内には様々な句碑・石像やお社があります。向島の昔を思いめぐらしながら、ゆっくりと参拝しては如何でしょう。

【編集後記】

とても困っている。「押仲」100号を目指しているが夢で終わるかもしれない。令和4年度も上半期が終わり10月に入るといのに、未だに総会を行っていないため、昨年度の事業報告や会計報告、そして今年度の事業計画や予算案などを町会員の承認を受けていないまま、半年が過ぎてしまったのだ。町会事業を行うにも、町会員の承認を受けていないので町会費を使う訳にはいかない。

過去2年半のコロナ禍を理由に、令和元年度の総会報告は回覧板で、令和2年度の総会報告も書面で行ったが、さすがに今回は書面で済ます訳には行かない。直接、総会で説明しなければ不誠実だろうし、当たり前だが説明責任がある。総会は開催出来ないが、大祭だから祭礼は出来るという言い訳は矛盾するから通用しない。

事実を知ってから1年後に総会報告の書面で行った300万円近い使途不明金の説明も含めて、総会が遅れた理由や具体的な今後の町会運営について、多くの町会員が心配しているのだから、きちんと責任を果たさなければならぬ。

町会員の皆さんが安心して暮らせる町にするのが町会の役目なのに、本末転倒になっている現状は早急に改めなければならぬ。

